

帯広市国土強靱化計画地域画 第2回有識者懇談会 議事概要

日 時／令和7年9月29日(月)10:00～11:30

場 所／帯広市役所10階5A会議室

■出席者

【委 員】

所 属	役 職	氏 名
国立大学法人北海道国立大学機構 帯広畜産大学	名誉教授	辻 修
一般社団法人帯広建設業協会 災害対策委員会	委員長	村上 互
国土交通省北海道開発局帯広開発建設部	次 長	高野 真司

【オブザーバー】

所 属	職 位	氏 名
北海道十勝総合振興局地域創生部 地域対策課兼危機対策室	主 幹	上田 慎二

【事務局】

所 属	職 位	氏 名
帯広市総務部	部 長	河原 康博
帯広市総務部危機対策室	室 長	尾澤 琴也
帯広市総務部危機対策室危機対策課	課 長	野崎 実
	課長補佐	田口 賢祐
	副主幹	物見 和利
	係 長	小山内翔吾

■配布資料

資料１：次第

資料２：出席者名簿

資料３：配席図

資料４：帯広市強靱化計画推進事業（令和３年度～令和６年度）の振り返り

資料５：帯広市強靱化計画原案

資料６：北海道強靱化計画と帯広市強靱化計画におけるリスクシナリオ
比較表

資料７：帯広市強靱化計画リスクシナリオの現行計画との比較

１ 開 会

座長より開会宣言及び出席委員数が３人であり過半数超えているので本懇談会の成立を報告。

２ 議 事

（１）帯広市強靱化計画推進事業（令和３年度～令和６年度）の振り返り

① 事務局より説明

○評価基準

- ・評価基準は、年度当初から計画していた事業で「予定通り又は予定以上に実施できた」はＡ、「概ね予定通り実施できた」はＢ、「予定通り実施できなかった」はＣとなっている。

○振り返り

- ・令和３年度から令和６年度の評価は、ほとんどの事業で予定通り進んでいる。一方で、「課題と方向性」は、それぞれの推進事業において課題が残っており、その課題を解消する取り組みを推進していくため、引く続き現行計画の推進事業を、令和８年度以降も施策プログラムへ設定する考え。

② 帯広市強靱化計画推進事業(令和3年度～令和6年度)の振り返りに対する質問及び意見

委員

- ・ 40 頁の再生エネルギー導入促進事業が、評価が C である。全体でも C 評価は 2 件あり、内容を確認すれば件数が伸びなかったから C は理解できるが、C となっている理由を明確にした方が良いのでは。

事務局

- ・ 当初説明した通り、C は想定の 60 % 未満となっていることから、募集件数 200 件に対して 100 件であったことから 50 % であるので C 評価となっている。

(2) 帯広市強靱化計画原案

① 事務局より説明

○第 1 章について

- ・ 第 1 項に「国土強靱化とは」の説明を追加
- ・ 第 2 項の「計画の策定趣旨」は、令和 7 年度（2025 年度）で計画期間を終えることから、国や北海道の計画と調和を図り、改めて本市の災害リスクや地域特性等を踏まえ、必要な見直しを行うことで、甚大な被害を回避する災害に強いまちづくりの実現に向けて策定するもの。
- ・ 第 3 項の「計画の位置づけ」は、基本法第 13 条に規定する国土強靱化地域計画として策定する。国の基本計画や北海道強靱化計画との調和を図りながら、防災・減災に関する分野計画として、帯広市総合計画に即して策定する。
- ・ 第 4 項「計画の推進期間」は、令和 8 年度（2026 年度）から令和 12 年度（2030 年度）までの 5 年間とする。

○第2章について

- ・第1項の「帯広市強靱化計画の目標」は、現行計画の3つの目標を引き続き掲げる。
- ・第2項の「本計画の対象とするリスク」は、太平洋沖における海溝型地震の十勝沖における30年以内の発生率と根拠資料の修正、過去の被害状況に2月の雪害を追加、帯広市外（道外）の主な自然災害リスクの南海トラフ地震の発生率と根拠となる資料を修正した。

○第3章について

- ・第1項の「脆弱性評価」の考え方は、リスクシナリオの設定、評価の実施手順については変更なく、全体的に文書を整理した。
- ・「19の「起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）」は、道の計画と調和のとれた形に見直し、より具体的なリスクを記載している。また、本市の地域特性を踏まえ「火山に関する記述」「津波に関する記述」「警察に関する記述」「コンビナートに関する記述」は削除している。
- ・第2項「施策プログラム」の考え方は、脆弱性評価を通じた施策検討の内容について変更なし。
- ・「推進事業の設定」は、帯広市総合計画の事務事業から設定する。
- ・「指標の設定」は、推進事業の進捗や実績を定量的に把握するため、帯広市総合計画の成果指標より設定する。
- ・第3項の「脆弱性評価及び強靱化のための施策プログラム」は、脆弱性評価、リスクシナリオを回避するための施策プログラム及び推進事業を19のリスクシナリオごとに整理している。

○第4章について

- ・本計画の推進にあたっては、各施策プログラムの推進事業ごとに評価などを行い、必要に応じて取組内容の改善を図り、施策を推進する。

②帯広市強靱化計画原案に対する質問及び意見

座 長

- ・6頁（4）の帯広市外における主な自然災害リスクであるが、先ほど他の委員からあった三重県の地下駐車場水没も帯広市に関わりがあるので付記してはどうか。また、今年の猛暑に関しても自然災害とは言えないが、地球温暖化傾向などは書き込んだ方が良いので検討願いたい。
- ・28頁の「2－4－1 厳冬期等を想定した避難所等の対策」となっているが、今後起こりうるものとして、猛暑対策として避難所の整備も検討する必要があるような内容を入れた方が良い。

事務局

- ・検討する。

委 員

- ・指標があるものと指標がないものがあるが、何か分けているのか。

事務局

- ・推進事業は、帯広市総合計画の事務事業を設定しており、その中にあって、指標があるものと無いものがある。

委 員

- ・17頁の「1－3－1 洪水・内水氾濫への対応と河川改修等の治水対策」の指標の説明で、「情報提供事業の上下水道部HPのアクセス数」とあるのは、強靱化の計画においては違和感がある。

事務局

- ・指標の設定については、進捗や実績を定量的に把握するため、総合計画の成果指標を設定している。強靱化計画と目的が必ずしも一致するものではないため整理する。

座 長

- ・ 33 頁の「3－1－3 道内外の自治体との応援・受援体制の整備」の十勝定住自立圏協定は分かるが、十勝総合振興局の記述がないので、十勝総合振興局と協議する旨の記述があった方が良いと思う。
- ・ 38 頁の「4－3－2 地場農畜産物の付加価値向上による供給力の強化」の「地域ブランドの確立に向けて、PR 事業などに取り組む。」は、危機管理で言えば、災害が起きたときでも、最低限の食料を自給自足できる農業体制をつくるのであれば、理解できるが、付加価値向上、販路拡大とか災害時にこんなことができるのかと思う。フードバレーの価値・推進を書いているのは、強靱化計画との関係に違和感がある。

事務局

- ・ 検討する。

委 員

- ・ 40 頁「5－1－1 関係行政機関相互の連絡体制の整備及び情報の共有化」で、通信業者等と協定を結んでいるのであれば、書いた方が良い。

事務局

- ・ 検討する。

委 員

- ・ 3 章の全般的な話として、章や節または章の項目ごとに指標をつくることはできないか。

事務局

- ・ 検討する。

座 長

- ・ 最後に全体を通して、質問・ご意見ありますか。

委 員

- ・ 2 1 頁の「2－1－2 自衛隊体制の維持・拡充」で、自衛隊の人員不足で、帯広市は何ができるのか。

事務局

- ・ 体制維持拡充実促進会において、要望活動を行っている。

座 長

- ・ 自衛隊の災害派遣は知事が要請するので、この文章だと市長が要請できるような感じがするので、整合性を図り記載した方が良い。

3 その他

座 長

- ・ 事務局からの連絡は。

事務局

- ・ 今後のスケジュールについて、今回説明した原案は、1 1 月の市議会総務委員会へ報告後、市民意見を募集するためのパブリックコメントを行い、計画案をまとめ、1 月頃に第 3 回有識者懇談会において示した後、委員会で報告し、今年度中に成案とする予定。

4 閉 会

座 長

- ・以上で、帯広市国土強靱化地域計画第2回有識者懇談会を終了する。